

越前若狭の大工と
絵図道具

越前若狭の大工と絵図道具展

開催報告

2007年



目 的	法隆寺の金堂や五重塔をはじめとする木造建築は、日本が世界に誇れるすばらしい伝統文化であり、これを造ったのは、宮大工あるいは堂宮大工と呼ばれる、寺社建築を専門に手掛ける大工たちである。福井県内では、鎌倉時代に建立された明通寺（小浜市）の本堂・三重塔が現存する最も古い建築である。しかし、これまでの発掘調査によって、古代より堂塔伽藍を擁する寺院が存在していたことが確認されており、それを技術面で支えた大工の存在も想定できる。そして、中世には永平寺大工が台頭し、江戸時代になると旧金津町伊井の大工や旧武生市小野谷の大工、若狭小浜の大工なども活躍して、その技術は今日に至るまで連綿と受け継がれている。今回の展覧会では、おもに県内で活躍した越前や若狭の大工たち、彼らが残した絵図や技術書などの記録、彼らが使っていた道具などを紹介し、越前や若狭の大工たちの優れた技術の一端を探ろうとするものである。
タ イ ト ル	越前若狭の大工と絵図道具展
開 催 期 日	2007年5月12日（土）～ 7月8日（日）
開 催 場 所	福井市立郷土歴史博物館
主 な 内 容	■展示 古式道具や絵図面など、100点余り ■講演会 5月19日（土）13：30～ 吉岡泰英（福井県文化財保護室）「越前の大工、若狭の大工」 5月26日（土）10：30～ 海老崎条次（海老崎組）「錦帯橋の木組」 6月9日（土）13：30～ 上野幸夫（富山職藝学院）「瑞龍寺の図面と山上善右衛門」 6月23日（土）13：30～ 渡邊晶（財団法人竹中大工道具館） 「木の建築をつくる技術と道具の歴史-古代・中世・近世を中心に-」 7月1日（日）13：30～ 国京克巳（若越建築文化研究所）「伊井の大工、小野谷の大工」 7月7日（土）13：30～ 吉田純一（福井工業大学）「大工と棟梁、昔の絵図面について」 ■図録出版 越前若狭の大工と絵図道具
主 催	「越前若狭の大工と絵図・道具」実行委員会 福井市立郷土歴史博物館
後 援	福井県 福井県教育委員会 特定非営利活動法人日本伝統建築技術保存会 社団法人福井県建築組合連合会 社団法人福井県建築士会 社団法人福井県建築設計事務所協会
協 力	財団法人竹中大工道具館 株式会社鶴工舎 キヤノンマーケティングジャパン株式会社
特 別 協 力	伝統文化技術研究会 “とき”
制 作	伝統文化技術研究会 “とき” 鈴木伸悟



会場設営風景



会場設営風景



会場設営風景



会場設営風景



会場設営風景



会場設営風景



開催式



開催式
直井棟梁



開催式
池田木材社長 祝辞



会場風景



会場風景



会場風景



デモンストレーション会場



デモンストレーション会場



特別講演会風景
海老崎棟梁



特別講演会風景
海老崎棟梁



特別講演会風景
海老崎棟梁